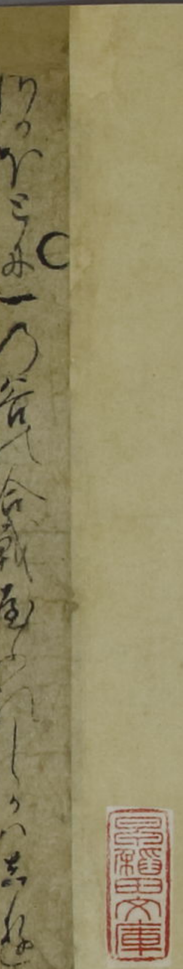
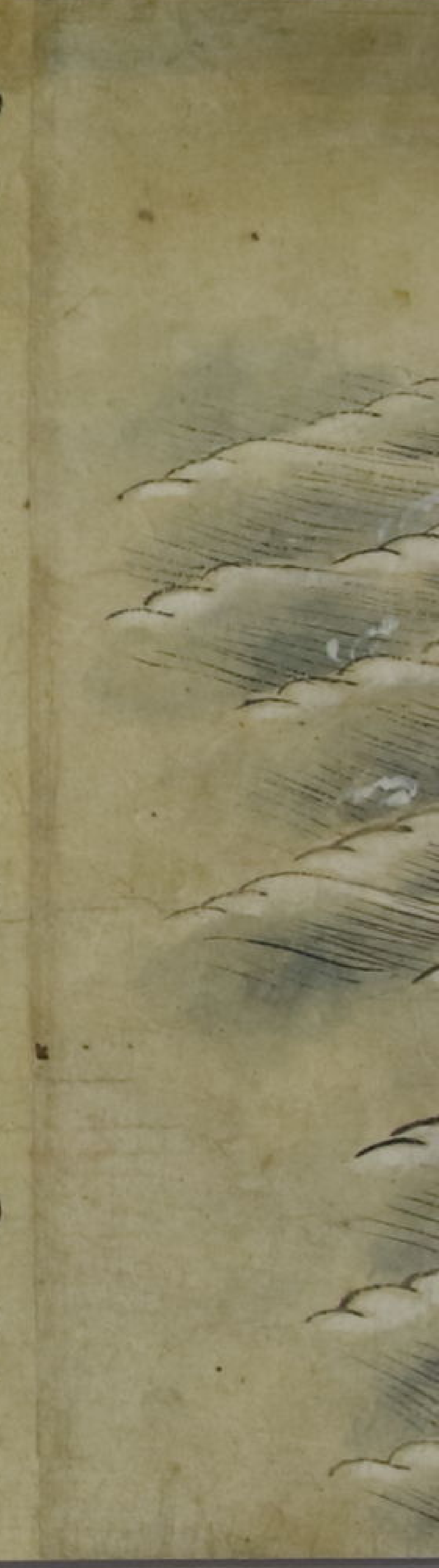
けのやうなる一人の武者、合戦屋とおぼしき
ものに、二位殿とりたてまつりて、舟より
とりおろしまゐらせ、海へ入れまゐらせ
ぬんあるとうの四郎、舟より
さしてかけいらせ、四郎、
はりあしらはるやう、二郎殿、
まゐりの武者、
くるしからんぬ、
いらひしりて、三
の二い者、
むまし、
かく者、
取り一ぬ、
きぬ、
むさ者、
者共、
ちとら連歌
うらしらくとうかう
ち風
沖のこさ船
ものこそいこうとう
者いたし
ていはるる
そ武者
なりの大
さ東
かし

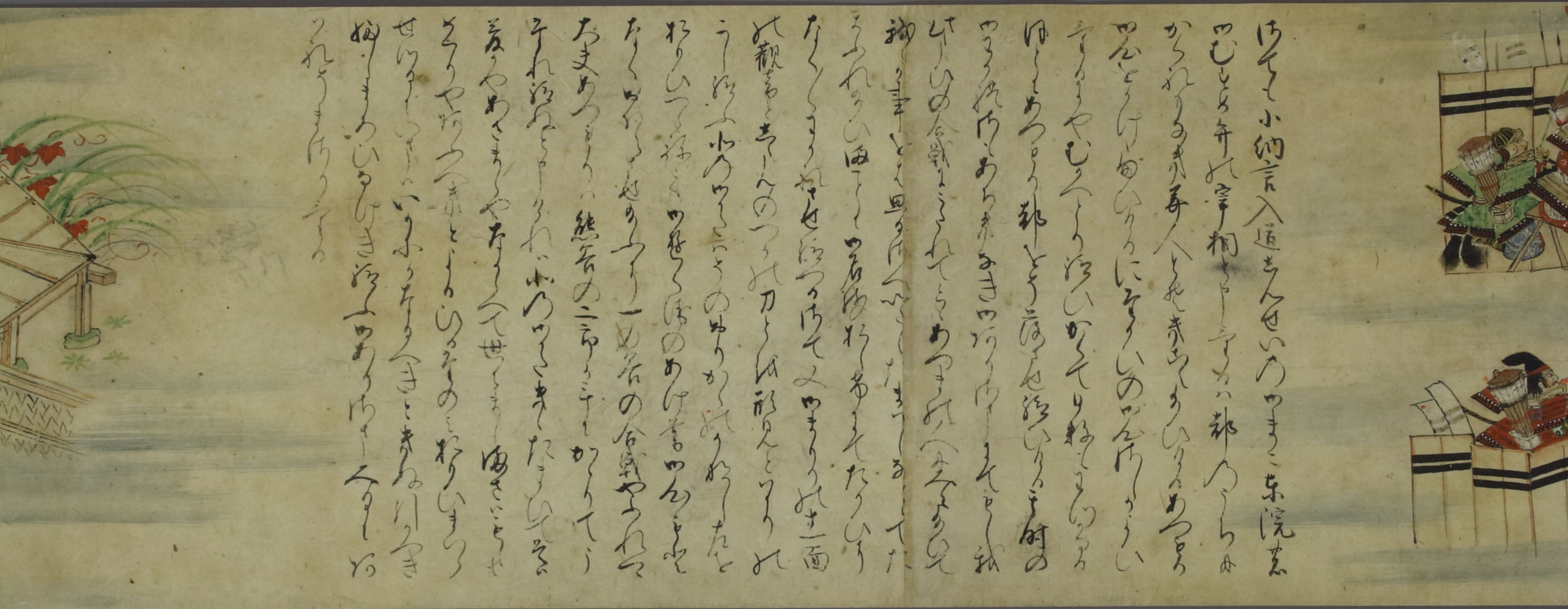




舟のあるらんはしみたつのねまいらん物をハいて
何しかさし船をめさせ給ふへくまいらせやられとみの
よろしこのしほのかみまかりとおりハたらねハいて
さかりのまへのあつまりはらぬあけこつちら之打
うら給ふとてえくらうちのとまりてそいのくさまち
かあいよろしこゆへとふろとく海やい大力のとも
経盛ハ子若まいらせてらへいたかたてまつり
太刀とかうしとてうしぬ力とねきやう甲と
ひまちきりそかけかいゆんてハいまあかけ
あそれまつ道ハ年のいとけ十六七のそのよき武者
まてまう海すみわうしくまかにいけ寸のしやく大刀き
らんてかゝまりへたまのいけくにいかとくくさしかい
え寸給ひあく種まうせ給ひてえいゆへぬ
人まての入かやんをあせ給へとやうれはなれハ
芋一のかしめ若を若家のあえぬ事とや初ハ
ゆめの若の誰ておてまへれ若家のまの事ぬ
あまのかせのしるみぬのとしハ海人のにき若
しれらんこしにてあつしんとおりひ若とこうしたい
あまあけんとてこそ若れまの事ぬあれなやく
らひとみて人をとへとそぬれ給ひにまかりますや
中やうねゐつらめ事りたれてもられ一の谷ぬき給
口まて武蔵の小次郎直家能ちやせのかに中になりかねる
これる見まし道ハ四年もかねし経のまよりと帰り
終ふおりハあさまりしせて中かさいくは中給ひおさふい
廻向せよし中若家のへとやうれハ若めらしとい思へ
ともあつまし武者の恐れかたとかの情を知てあつの宗
かねゆけハ申すみつつむまもれれ桓武天皇よは
八代のこういん太政大臣清盛の舎弟修理大夫経
盛の末子大夫敦盛生年十六歳
とまうふのあとへいろさいはつまりつるわれの
さえたと申す笛をとひてまへとおてつく持たれ
物としてわかふい給へかしおもひにてうちさきしん
ぬ家より入道の笛としてわか申給されにもつれ
給てまおあつまきまうしくらひとう給ひとまの

國の三宮宣旨をもつて生年十六歳
とりあげられ申しかたいまつりたり
さてさて弟とひひこまとまる物語り
物をもらめ給へとてうらまれん
女房入の弟とうわ
はてしめきまるやくらひとを給ふ
給ふまとて給ふ力とせんとめ
えすめきれてまぬうう方のあれくちえ
とのまいのうわき者らしあれまる
出家一の弟きこいれとひよ
とかくいろさせ海の書をなれん部てくう
弟をれ新よのひ清とうきれつひ男
れけうれうけ海のれそきうやきて
かきうす新とれりいあれあうれむうてうれ
をうひうう島の船をまうす時のちまう孫
ぶうはまとれのうん言そうれのれき
れうさんうけき給りんすんう四年し小法師と
同年をまうせ給ふまるもつえめうれうや
いうあしてやうとれりのつぎはひう
ちうちうひきをたてまつりかうとやま
給をは給ふんうれとはのうとを表とれを給と
んのこうこむたうと思うそうまれうと給
あうて世時ひうはひうにのうとつてあれ
平山のき者と思うそうはうはうてひん
しうのの法軍勢を寄のうれとしは
給ふんはうとかうとかうはうはうはうはう
とめうを給ふう京給ふうはうはうはうと
給ふうとうとかうてうちうはうはうけ
ひうんうは四新とは給ふて弟者の稚うて小
法師うは給ふうはうやうはれりきう元服の会
とすうちうとれうはうむき会仏十つんうう
ひうはうやうひうをうはれうはうはうとうと子
弟をは弟者をうはうはうはうはうはうはう
まうはうう

[illegible]
[illegible]
[illegible]



けてと小納言入道さんせいのつまこ左院さ
ぶしとも弁ゝ宰相さゝ一ゝ新ゝらぬ
かゝれるゝ武者人ゝ長ゝ者ゝ
ゝゝとけ面ゝにてゝいのゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花ゝしもたのしくてまつりごとはおしからんとしてあけ露
あけきりおしこめしいかにせきこしめす付湯あ
あまたとさりて池付かゝりてゆかりしめしつゝあり
なにしろやみなしもせられてかしきてかきりうとおも
そこも申ひかりら人も日前も大ゆかと池さまけき
猶て果手もらともしていまもかくしゆゑんの人
こめちここ親と思ひてやいにからうてゐる事
なひんまゝとしこめちこの様ゆるしてあやき
事やらんきてまとめ池りれとて付らまやの道
十けのいゆてもゆやさうしいれ給ゆつき上やりの
やうの女の女めいふて様しもりの緒けの四付年の様たら
事めて毎月云さいの四緒けの上前の年の緒から
人あとうしそう末ゆてかのゆきめいのかなと
まつてかめのほかのゆうゆふ人めてめ去け末時ん
ゆかゆていまて下向めのほとめ届しくはうりト
そのれもゆくとなのせんゆかうとうしも随関の人
ゆつのたうい始んとありてまうやりてかてう後
はとうりしも池かのせんゆうゆおうえにありうこ
かくの人番隊の神とかおよめてあうてとれうしゆふ
あれうちやしとんの人て末池へ一とや悪信かり人
給ゆかりゆのし下根の前んまてゆきあい人とゆく
いてい呼いまや一歳りたのいまて我て私は愛
これとしちこそあちうと思ひてぬうしうけき
物とくらう寸湯のなきてぬまき付うてゆましいかあらて
あやくいうもし随関めんこの中まみしちこみのゆか
と落ゆうきをのみ人ては人てらそましいゆ平家さの
人のそちもゆまりのいゆ悪信かとうりてたてト申家ま
おりトゆう人六路の人まいまトしううしゆうて
いまうしこめちまていとしてにしろうしく始らんと
ゆ八ゆんもいのきあろましかてさめしくとおかなす人へ
ちあましうゆいて神をねゆさねいぬいのうのさを
やな随関の人てめゆ中もあきも十二ひとへてとうゆ
末らの女あゆらかんいまいたなのゝそて申ひて
ゆとえうほとしておあいてかめゆきめいと池さてのき
めせもろくとおゆゆふいやくうてやるしさうさんゆう
かんかゆくゆまし志の四名け木うに雇の道
おひの間のゆうて時ゆへうてまりいかうてけ上臈

めせとうとうとう

中国
2084
1